令和元年度政策討論会　第二分科会（第２回）要点記録

日時	令和元年８月１３日（火）　１３：００～１４：００
場所	第１委員会室
テーマ	交通弱者への対応について
出席者	○堂本啓祐　反甫旭　南加代子　岩崎雅秋　河合馨　◎岡林憲二 雪本清浩　今口千代子 （議席番号順）

◎座長　○副座長

（座長）

本分科会のテーマ、「交通弱者への対応」を討論していく最初として、岸和田の現状を把握していきます。高齢者の事故が多発し、社会問題になる中、免許証を自主返納する人が増えてきました。交通弱者に対するバス運賃の助成やタクシーチケットの配布など、府に加えて市単独の助成制度ができないかを考えていきます。みなさんの思いをお聞きする。

（委員）

私は、このテーマを考えるとき、３点あると思っている。１つ目はJR阪和線より上の地域では、今後路線バスが廃止される中で、交通弱者への地域バスをどのようにしていくのか。２つ目は、JR阪和線より下の地域。この地域は交通が比較的整っているが、今話題になっているローズバスの運行の在り方を議論する必要がある。　３つ目は、免許返納した方とか高齢の方とかへの助成制度を検討する必要があると考えている。

（委員）

岸和田は海から山と縦に長い地域。その中で路線バスが通っている所と、通っていないところもあるが、利用する人がいるのかいないのかということが重要だ。交通の利便性を高めても利用者がいなければバス事業をやる意味がない。バスがあればいい

なぁという要望は聞くが、実際には利用しないということもあるので、住民との話し合いの中で、どのように利用者を確保していくのかも課題となる。
　また、何のために交通の確保が必要なのかについても議論し、福祉政策と結びつけていくことも考えなければならない。

（委員）
　岸和田は、縦に長い地形が問題を複雑にしている。福祉の立場から、福祉バスと位置付けた交通政策が必要だ。車いすの利用者に対して道路（歩道）整備されていないので、今後道路整備も必要だと考える。
（委員）
　本市の公共交通に対する取り組みは、必ずしも現実に合っているとは思えない。阿間河滝町のような交通空白地帯を作っている本市の交通政策は問題である。教育の部分では塔原―相川間でデマンド交通の実験をやるというが、その趣旨も不明である。路線廃止のための実験であれば大きな問題だ。「福祉都市岸和田」としては、福祉面から貝塚市の「はーもにーばす」も参考になるのではないか。
（委員）
　これから先、高齢ドライバーの方が免許を返納して運転できなくなるケースが増え、公共交通が必要になってくる。また、免許返納等を進めていく上では、山手の方は特に公共交通の整備が必要。
（委員）
　私は交通弱者と言うジャンルでは健常者だけを考えていた。現在主だった谷に向かってはバス運行があるが、他の一般の市民にとっては利用しやすい現状とは言えない。現在のローズバスも、改善していくことが必要である。市全域を考えた交通政策が必要だ。
（委員）
　岸和田は高齢化が進んでいるが、どのように進んでいるのか、また高齢化の将来推計についても、数字で押さえておきたい。免許を持たない高齢者や道路交通法改正の該当状況も調べていきたい。またバス利用の目的別利用者数や交通への助成状況等についてもこの会を通じて一緒に調べていきたい。
（座長）
　私自身は、バスにはあまり乗らないが、利用者の確保とか利用しやすい環境を整えていく必要があるのではないかと思っている。これから高齢化がどのように進んでいくのかも抑えていきたい。さきの委員がおっしゃったように、車いすの方の道路整備も進めていきたい。

今後どのような点に重点を置いて討論会を進めていったらいいのかご意見を聞きたい。

（委員）

提案された委員に話を聞きたいが、交通弱者とはどのような方を対象にしているのでしょうか。

（委員）

当初は、健常者で高齢者の方、交通空白地の方を交通弱者として提案した。皆さんの話を聞き、さらに範囲を広げる必要があると考えている。

（委員）

交通弱者についての考え方だが、交通は生活する上で欠かせないものだ。福祉の面もある。岸和田は、地域によって買い物とかの利便性も大きく異なるが、日常生活に欠かせないことへの支援と捉えていくのが良いのではないか。

山手のほうは高齢者でも軽トラックを利用して買い物をしているが、これもいつまでもできるとは思えない。通勤通学の時間帯は利用者がいるが、真ん中の時間帯には利用者がいない。なぜ真ん中の時間は利用者がいないのか、住民アンケート等の実施も考慮し、深く掘り下げていく必要があるのではないか。

（委員）

今日は、岸和田の現状を出していただいている。どの方向に議論を進めるかというのは、今の段階では難しい。次回に向けて課題の抽出をすすめ、その中で絞っていくのが良いのではないか。

2、3 年前に政策討論で「公共交通についての提言」を出している。いちどそれを参考にしてみても良いのではないか。

（委員）

副座長から発言のあった、数字的なデータは出してほしい。それと車の所有台数。

（委員）

高齢者の状況、高齢者の推計数字。免許を持たない高齢者の状況も整理する。車の所有台数、特に地域別の所要台数を自動車税等で調べることができるのではないだろうか。

（委員）

さきの委員の抱いている交通弱者とは、障害者も含めているのだろうか。

（委員）

車いす利用の方も多い。介護者の方の大変な努力もあって車いすの方は生活している。そういう方をこのテーマの交通弱者として入れていただけるのか不明だが、公共交通だけが交通弱者救済ではないと思っている。

（委員）
　貝塚の福祉バスの資料は手に入らないか。
（委員）
　今の段階で、貝塚の例を参考にすると、公共交通のあり方議論に終始してしまわないかと危惧する、福祉と言う横串を入れた交通政策の議論をしていきたい。教育の場面での補助は出ているが、福祉の補助は薄い。福祉の面を充実させたい。
（座長）
このテーマについて担当課を呼ぶ必要があるか。
（委員）
　今、市街地整備課を呼ぶとローズバスの問題に特化してしまいそうだ。また、福祉政策課はまだ交通政策について十分な対応できていない。われわれはもっと課題を抽出して、単に交通網を整備するだけでなく、例えば宅配のサービスにも市が入る等柔軟な対応を提案できればと思う。
（委員）
　政策討論というこの場では、福祉政策のバスということも考えていく必要があるのではないか。貝塚は福祉ということで金をつぎ込んで実施している。政策転換が必要な時期に来ているのではないかと思う。この場は自由に討論できる場だから、福祉バスを研究してみてもいい。
（委員）
　賛成だ、公共交通の担当課は少し考えが偏っている。交通弱者が多岐にわたって増えてくる現状を無視している。本当の市民サービスを考えていないのではないか。岸和田の移動手段を考える場合には、今までと違うスタンスで考えた方が良いと考える。また、課題抽出の次に担当課を呼んでも良いとは思っている
（委員）
　次回、さらに各委員より課題を出していただき、議論を深めていきたい。次回討論会は、9 月 20 日（金）、朝 10 時からとする。